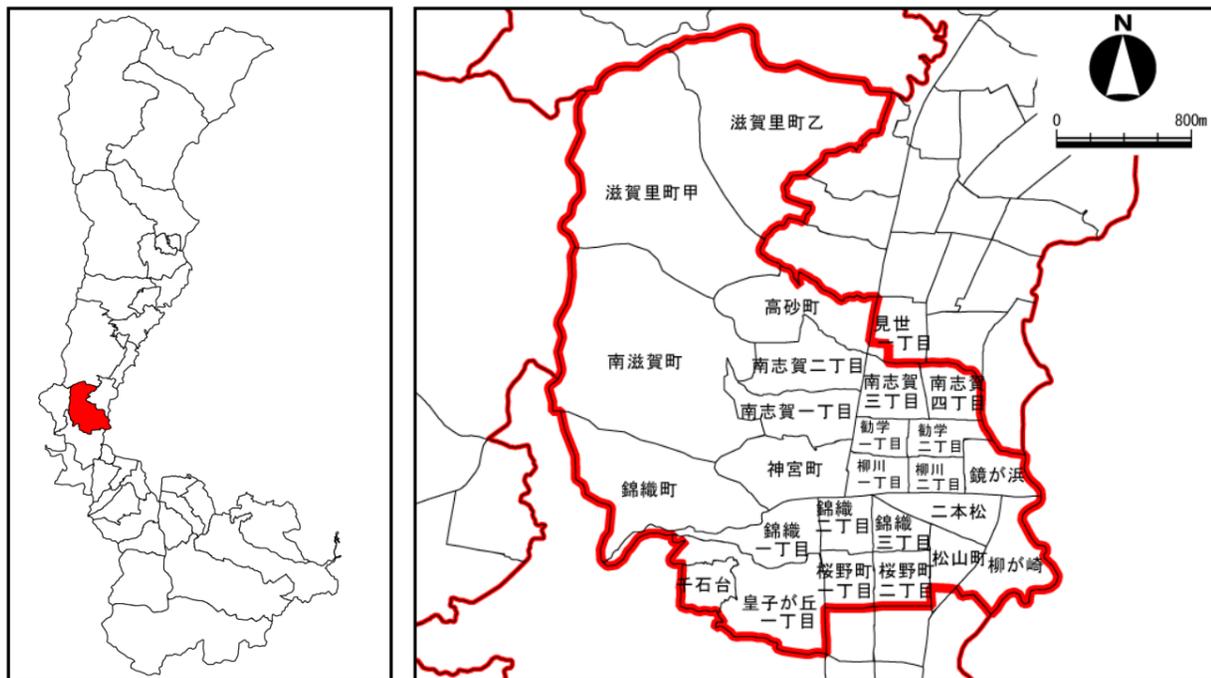


■ 学区の概況



<町丁名>

皇子が丘一丁目、桜野町一丁目、桜野町二丁目、錦織一丁目、錦織二丁目、錦織三丁目、二本松、柳が崎、神宮町、南志賀一丁目、南志賀二丁目、南志賀三丁目、南志賀四丁目、高砂町、見世一丁目、勸学一丁目、勸学二丁目、柳川一丁目、柳川二丁目、鏡が浜、錦織町、南滋賀町、松山町の一部、千石台、滋賀里町甲、滋賀里町乙

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

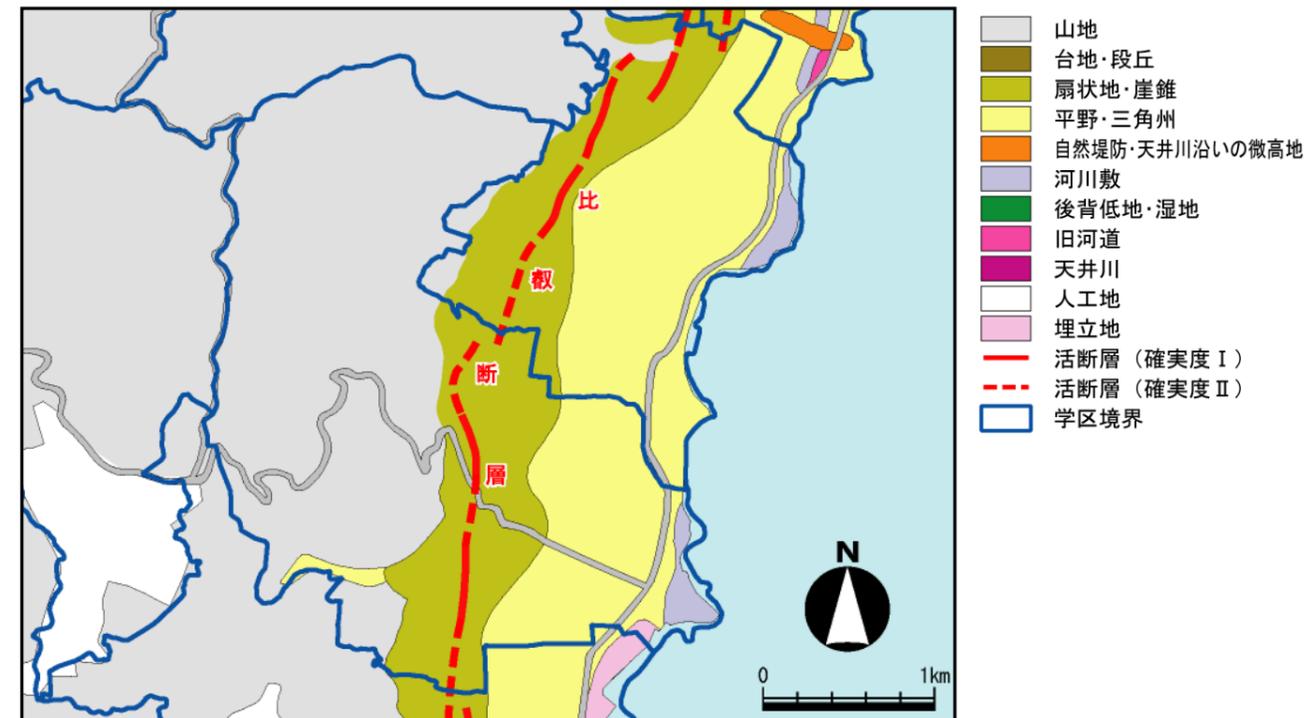
<学区の特徴>

滋賀学区は北を際川、南を不動川でほぼ限られ、比叡山の東麓に位置を占める。学区一帯は比叡山系がつくる花崗岩の風化土を中小河川が押し出して形成された複合扇状地となっている。このような恵まれた立地条件から、弥生時代前期にはすでに集落が形成され、古墳時代に入ると皇子山古墳群等、多数の古墳群がつけられた。

667年にはこの地域に大津宮が建設されたが、5年後には壬申の乱が起り荒廃した。昭和49年以降、錦織地区から大規模な遺跡が発見され、ここが大津宮跡とされている。

柳ヶ崎は湖上スポーツの基地として多くの若者達が楽しむ水辺となっている。一方山手には近江神宮の森や皇子が丘公園が整備され、緑豊かな市民の憩いの場となっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 滋賀学区の地形は、西部が山地、地域中央部がやや傾斜を持った扇状地性の低地、東部が低平な氾濫原性の低地である。柳川は天井川化しており、湖岸線は柳川の河口や柳ヶ崎が琵琶湖に突きだしている。
- 坂本学区より石山学区まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは40万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。柳川は氾濫原性低地部において多量の土砂を河床に堆積するため天井川化している。

<地質の特徴>

- 西部の山地は、比叡花崗岩からなる。これは中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。

<活断層の特徴>

- 本学区の扇状地分布域に比叡断層が通過している。比叡断層は、坂本から三井寺付近まで延びる、長さ約8.5kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
皇子が丘一丁目	48.2	89.6	57.0	48.5
桜野町一丁目	59.3	66.7	73.6	49.8
桜野町二丁目	56.6	72.6	66.5	36.0
錦織一丁目	50.6	65.6	80.0	49.5
錦織二丁目	76.6	65.2	76.5	57.4
錦織三丁目	78.4	63.8	72.5	43.5
二本松	72.2	92.1	74.1	53.6
柳が崎	-	-	13.5	42.9
神宮町	57.3	88.1	82.1	58.4
南志賀一丁目	51.0	73.3	80.2	60.4
南志賀二丁目	53.2	71.8	84.7	70.3
南志賀三丁目	60.8	75.4	82.8	24.1
南志賀四丁目	71.0	58.2	88.9	12.5
高砂町	58.6	87.0	75.1	50.9
見世一丁目	69.2	81.1	84.5	15.2
勧学一丁目	75.4	67.6	84.0	4.6
勧学二丁目	64.2	66.6	75.7	26.6
柳川一丁目	73.2	50.1	90.0	12.7
柳川二丁目	41.8	78.9	84.6	26.1
鏡が浜	52.5	90.3	50.0	2.0
錦織町	-	-	-	-
南滋賀町	-	-	68.8	81.8
滋賀里町甲	-	-	86.2	88.0
滋賀里町乙	-	-	76.5	23.1
松山町	44.3	87.8	47.1	10.5
千石台	57.4	75.0	57.5	16.3
学区平均	60.3	89.7	75.6	38.9
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 60.3 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 89.7% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、柳川一丁目 が 90.0% で最も高く、柳が崎が 13.5% で最も低い。学区平均は 75.6% で市平均 72.7% より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、滋賀里町甲が 88.0% で最も高く、鏡が浜が 2.0% で最も低い。学区平均は 38.9% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

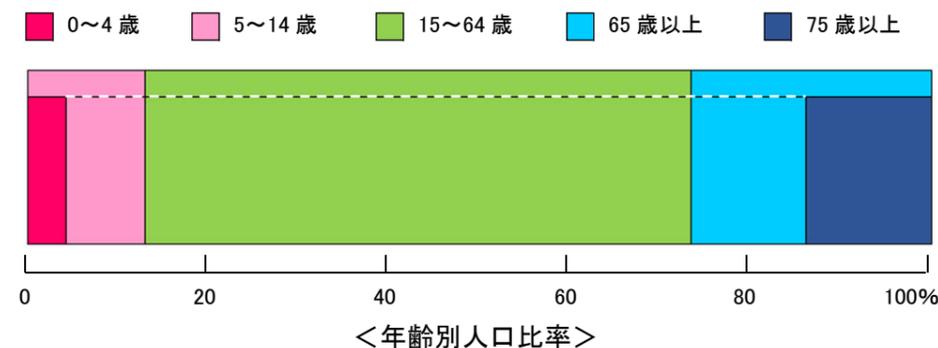
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	16,789	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	710	人	学区人口に対する割合	4.2	1
年齢別 (5~14 歳)	1,450	人	学区人口に対する割合	8.6	1
年齢別 (15~64 歳)	10,142	人	学区人口に対する割合	60.4	1
年齢別 (65 歳以上)	4,487	人	学区人口に対する割合	26.7	1
年齢別 (75 歳以上)	2,346	人	学区人口に対する割合	14.0	1
世帯数	7,869	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		-	2
要介護認定者	967	人	学区人口に対する割合	5.8	3
身体障害者 (要配慮者)	211	人	学区人口に対する割合	1.3	4
知的障害者 (要配慮者)	35	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	223	人	学区人口に対する割合	1.3	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区東部の平野・扇状地部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 学区人口は、市内で 5 番目に多い。
- 高齢者 (65 歳以上) は 4487 人、乳幼児 (0~4 歳) は 710 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 26.7%、4.2% である。
- 高齢者の学区人口は、市内で 5 番目に多い。
- 乳幼児の学区人口は、市内で 4 番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 967 人 (5.8%)、身体障害者 (要配慮者) は 211 人 (1.3%)、知的障害者 (要配慮者) は 35 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 223 人 (1.3%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所（注1）	13 箇所	1
土石流危険渓流（注1）	10 箇所	1
土砂災害特別警戒区域（注1）（注2）	46 箇所	2
土砂災害警戒区域（注1）（注2）	59 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹）（注1）	11 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流）（注1）	2 箇所	3
雪崩危険箇所（注1）	0 箇所	4
地すべり防止区域（注1）	0 箇所	5
地すべり危険箇所（注1）	0 箇所	1
浸水想定区域（注3）（0.0m～0.5m）	53,329 m ²	6
（0.5m～1.0m）	23,028 m ²	6
（1.0m～2.0m）	30,607 m ²	6
（2.0m～）	47,026 m ²	6
特に重要な水防区域（注1）	0 箇所	7
重要水防区域（注1）	2 箇所	7
防災重点農業用ため池（注1）	0 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

（注2）複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区東部地域の湖岸域には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、西部の広い地域が土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。またそれらの危険箇所付近に比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地周辺では、土石流危険渓流および急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。また、地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水にも注意が必要である。
- 地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	志賀小学校グラウンド	○	○	○		南志賀一丁目 5-1
	志賀幼稚園グラウンド	○	○	○		勧学一丁目 8-1
	柳が崎湖畔公園芝生広場	○		○		柳が崎 5
	柳が崎湖畔公園駐車場	○	○	○		柳が崎 7
	皇子が丘保育園グラウンド	○	○	○		皇子が丘一丁目 20-20
	皇子が丘公園		○	○	○	皇子が丘一丁目 1
	近江神宮外苑公園	○	○	○		二本松 1-2
	滋賀市民センター	○	○	○		南志賀一丁目 8-32
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	志賀小学校体育館	○	○	○		南志賀一丁目 5-1
	志賀幼稚園	○	○	○		勧学一丁目 8-1
	皇子が丘公園体育館	○	○	○		皇子が丘一丁目 1-1
	皇子が丘公園第二体育館	○	○	○		皇子が丘一丁目 1-50
	中ふれあいセンター	○	○			皇子が丘一丁目 9-10
	びわ湖大津館	○		○		柳が崎 5-35
	（福）皇子が丘保育園			—		皇子が丘一丁目 20-20
指定避難所	（福）志賀児童クラブ			—		錦織二丁目 9-29
	（福）第二松の実保育園			—		高砂町 15-9

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
滋賀市民センター	南志賀一丁目 8-32	522-2180

<警察 110>

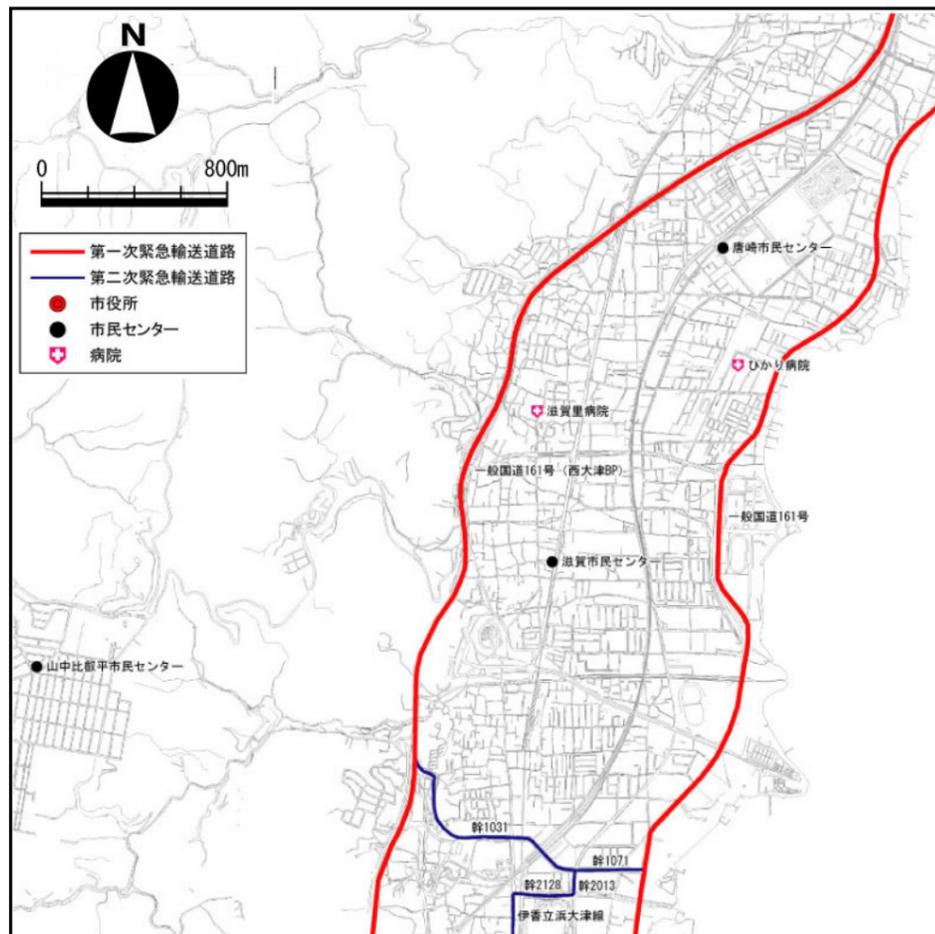
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
滋賀分団	神宮町 1-8	524-4428



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
病院	ひかり病院	際川三丁目 35-1 522-5411	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	4,594	15,194	1,183	1,129	1,748	28	15	18	221	143	151	11	7	8
ケース2	4,594	15,194	871	1,182	1,462	16	9	10	279	179	189	14	9	10
ケース3	4,594	15,194	767	1,203	1,369	13	8	9	305	191	206	15	10	10

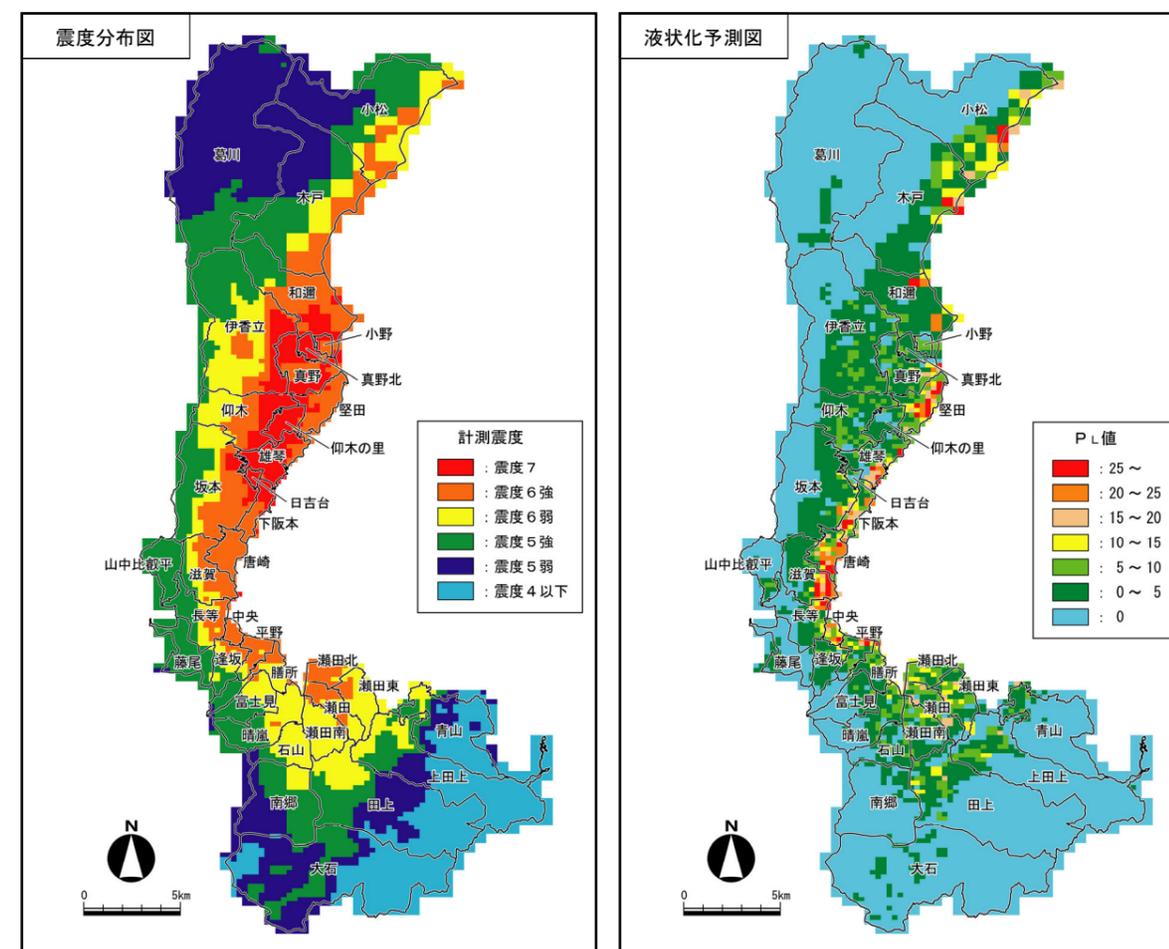
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	2	3	2,193
ケース2	1	2	2	1,973
ケース3	1	2	2	1,897

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)